

# フエにおける葬礼への宮廷文化・仏教・儒教の影響

グエン・クアン・チュン・テイエン  
(翻訳：上田新也・西村昌也)

## Influence of Dynastic Culture, Buddhism and Confucianism on the Funeral Rites in Hue

Nguyễn Quang Trung Tiên

ベトナムの葬礼習俗は18世紀に『壽梅家礼』が出現して以降、徐々に統一性がみられるようになるが、フエのそれには独自のものがみられる。宮廷が存在していたフエでは、皇族の後裔達の葬礼など、いまだ宮廷式の葬礼が行われているものが多い。そして、一般の人の葬礼においても、墓を巨大化し“陵”などと呼ぶ習慣が近年観察される。また、3年後に改葬をしない習慣も宮廷習俗の影響ではないかと考える。

フエでは、あの世に旅立つ寸前から読経し、納棺するときには光明布団をかけるなどして極楽への旅立ちを願い、納棺が住むと祭壇に仏と死者の靈魂を祀ることなど多くの点が、仏教からの影響として挙げられる。

また、儒教からの影響として、祠堂で行う朝祖礼や親族の親等レベルに応じた服喪期間などが挙げられる。

キーワード：フエ、葬礼、宮廷文化、仏教、儒教

### はじめに

ベトナム人にとって、葬礼は人生や社会生活において非常に重要な役割を持つものであり、この世での生活を終え、人々を有形の場所より虚無の世界へと見送るための儀式である。

ベトナム人の風俗・習慣においては葬礼の儀式と死者の埋葬はもともと各地方間で多かれ少なかれ異なっているが、胡嘉賓 (1690-1760年)<sup>1)</sup> の『壽梅家礼』が世に出た18世紀前半より、ベトナム人の葬礼の儀式は次第に各地方間で基礎的な統一が進んだ。

---

1) 胡嘉賓は父安処・瓊瑠県・Hoàn Hậu 社の出身で、後黎朝に仕えた [Lê Nguyễn Lưu (2006), *Văn hóa Huế xưa-Đời sống văn hóa gia tộc*, Nxb Thuận Hóa, Huế, tr. 290]。

『寿梅家礼』はベトナム人古来の風俗と中国的儒教儀礼を接合しようとする思想を体現した書物であり、そのためこの書物の葬送儀礼は以前より長らく儒教の影響を受けてきたベトナム人にとって受け入れやすかった。それより現在に至るまで、『寿梅家礼』の記す葬送儀礼は、広く人口に膾炙されて社会に普及し、多くの世代に熟知される習慣となり、特に都市部では現代社会に適合させるため簡略化されてはいるものの、ベトナムではいまだに正式な儀礼が多くの場所で広く行われている。

しかしながら、一定程度ではあるが、フエにおける葬礼ではいまだに多くの地方の葬送儀礼とは異なるいくつかの特徴が見られる。恐らくその原因は3世紀にもわたって阮氏の首都であり、かなりの長期間にわたって国土における儒教と仏教の中心であったことにある。

### I. フエでの葬礼における正式な儀式

宗教や家長の社会的地位によって、フエでは各一族や各家庭ごとにそれぞれ葬礼には特徴がある。フエとその周辺において組織された多くの葬礼における我々の考察によれば、現在のフエにおける葬礼及び埋葬で一般的な儀式は、以下のような要素を含んでいる。

1. 招魂 (Chiêu hồn) : 死亡した人の魂を呼び、死体へと返す。

血縁者が死亡したとき、長男か長女 (死亡者が父母の場合)、あるいはその家庭の人物が、死者の普段着ていた服を取って家の屋根に上がり、東側に立ってから西側を向き、空中で服を軽く振りながら死者の名前を3回呼ぶ。この儀式の目的は死者の魂を呼び戻し、自分の死体へと入れることにある。

2. 喪主 (Tang chủ) と護喪 (Hộ tang : 葬式を手伝う人々) を決定 : これは葬礼の主となる人物と葬儀を手伝う人物を選ぶ。

3. 墓穴と葬儀の忌日を選定 : 埋葬地を選び、選ばれた忌日に従って葬送儀礼を実行する日程を組む。

4. 治棺 (Trị quan) : 死体を入れるための棺を準備する。

死者を入棺する前に、人々は棺を拭いてきれいにし、縁に膠を使って棺を縁取りし、chai phà という樹脂 (森から取るある種の木の脂) を棺の内部の全ての面を塗った後、紅紙 (hồng diều : または diệp) という紙を内部に貼る。次に棺の底一面に灰を敷き詰め、その上に沈香の粉 (もしくは粘土) を軽く敷いて固め、さらに油ランプの芯 (tim bác : 綿糸を束ねている) を引き裂いて一面に敷き詰め、これが終わると再び粘土を敷く。このような入念な治棺を行う目的は、フエでは通常、葬送が長期間にわたるため、死体の臭気を外に漏れないようにするためである。

5. 告訃 (Cáo phó) : 死者の親族の家庭に訃報を知らせる。現在、普及している告訃の方法としては、伝達のためにテレビ局を通じて行う方法などがある。

6. 沐浴 (Mộc dục) : 俗塵を完全に洗い流すために死体を拭き、洗ってから服を着せる。

拭いたり洗ったりする仕事は死者の子孫によって行われる。男性の場合、男性の子孫が沐浴させ、婦人の場合は女性の子孫が沐浴させる。用いられる品々は、小刀・正方形の布、大匙、少々の土地、五味香 (ngũ vị hương : 五種類の香りの異なる水) 水および温水用の鍋。

人々は布きれを手にとって五味香水にひたして死者の体を清めるために拭き、櫛を使って死者の髪を整え、手足の爪を切り、正しく整えて衣服を着せる。切った手足の爪は棺の中に安置した後のために包

んでおき、櫛と大匙は埋葬まで持って行く。

このようにして死者を別途の上に置き、手で結ばせ、魔除けのために腹の上に小刀を置き、蚊帳を下ろして隠す。死者の家庭が儒教・道教・祖先祭祀の影響を受けている場合、横になった頭側に椅子を置き、その上にうつ伏せにした茶碗飯、卵、一対の箸が置かれ、箸の頭は藁束のような縁取りに削られている<sup>2)</sup>。仏教に従う人の場合、卵の代わりに塩を持った皿があり、灯火が加わる。キリスト教信者の場合、死者の洗礼名を記した切れ端を置く。ベッドの下には死者の魂を守るためと、死体の臭気を除去するために2つの灯芯がある皿に入れた奉灯が燃やす。

7. 飯含（Phạn hàm）：死者の口に金銭や米を入れる。

米ひとつまみと金属硬貨3枚を死者の口の中に入れるが、一握りの米は死者の食事の代わりであり、硬貨3枚は黄泉へ行くための路費である。

8. 衾殮（Khâm liệm）と入棺（Nhập quan）：死者を衾殮し、棺に入れる。

通常、直近の良い時を選ぶため喪主は祈祷師に忌日を見てくれるよう頼み、その後衾殮と入棺を行う。

衾殮を行う人々の多くが頭巾をかぶり、死者の顔を絹の布で覆い隠して後ろでしっかりと縛り、2枚の布きれ（võng：ハンモック状の布<sup>3)</sup>）を使って遺体の尻から背中にかけてを包む。遺体を棺に入れるときは、6人で持ち上げるが、その内1人は頭を持ち上げ、1人は足の下の方を持ち上げ、4人は遺体を包んだ2枚の布きれの端をつかんで床の上を3回上下させ（下土 [Hạ thổ] と呼ぶ）、その後初めて棺の中に遺体を丁寧に安置する。棺の中には頭を高く上げるための枕があり、2つの枕が両方の耳をふさぎ、1つを頭に敷き、2つを足に敷き、2つを腿に敷き、2つは足を固定し、1つは顔を守る。全て段ボールで作られており、中には灯芯の束が詰め込まれている。

次に2つの布きれを開き、あごを縛っていた紐をほどき、うなじの辺りで結ぶための帯のついた四角い黒い布で頭を包んで顔を覆い、手を握りあわせ、靴下と靴を履かせ、何セットかの故人の衣服、いくらかのお金、トランプなどを棺に入れ、さらに灰、白砂、gió紙（訳者注：画仙紙の類）、茶葉、粘土などを詰め込んで死者の身体と棺の隙間をふさぎ、しっかりと塞ぐ。最終的に棺が十分に埋まった時、人々は再び「chai phá」という樹脂を棺の蓋と棺が接する部分に塗ってから棺の蓋を閉じ、籐の紐を使って棺をしっかりと締め付ける。フエでは死者の衾殮を行った後の棺はおよそ500kgにも達する。死体の衾殮を終えた後の棺は「霊柩」と呼ばれる。

9. 霊床・霊座の設置：棺のための霊床と死者を祀る位牌のための霊座を作る。棺はどんな時であっても遺体の頭が外に向くように置かれる。棺の上方には米・緑豆・落花生・胡麻・粟を含む五穀が入れられた瓶5個が置かれる。棺の蓋には旌（北斗七星）の形状を模して7つの灯火が置かれる<sup>4)</sup>。

2) 民間の説明によれば、藁束は混沌とした世界の象徴であり、その混沌が対極（うつ伏せにした茶碗飯が象徴する）を生み、対極が両儀（2本の箸が象徴する）を生み、両儀が“生”（卵が象徴する）を創造する。つまり死者がすみやかに生まれ変わることを期待するものである。

3) 遺体を直接触らずに、運ぶことを可能にするために用いる。

4) キリスト教の儀礼によれば、これらの崇拜儀礼は重視せず、主要なのは神父による祈祷文の朗読である。キリスト教式の祭壇は簡略であり、洗礼名の板、香炉（あまり使われない）、白百合の花瓶、十字架がある。棺の後方には教区の名を刺繍した布がある。キリスト教の儀礼によれば、これらの崇拜儀礼は重視せず、主要なのは神父による祈

10. 復魂と成服：靈魂を迎えて棺に入れて喪を發し、親類に喪に服させる儀礼。

以前は死亡してより水曜日を過ぎてから初めて成服の儀礼を行ったが、その後、衾殮が済んだ時、一家眷属が喪服を着れば十分であり、選ばれた「良い」日時に儀礼の行っている。

喪服は目の粗い蚊帳状の生地 (*vải mùng*) もしくは *tám* という粗い目の生地で作り、5種類あるが、現在は多少簡略化されている。

- 嫡宗の息子、孫：白色の衣服、頭に巻き付ける藁の帽子、バナナの幹の皮を乾燥させてつくった紐、背中で結ぶ帯紐、葬礼用の杖（父親の葬礼の場合は竹の杖、母親の場合は *vông* という木で作った杖<sup>5)</sup>。父親の葬礼では、折り返して縫いつけた端をもたない衣服 (*tang sỏ gầu*：斬衰 [Trảm thời] と呼ぶ) を着用し、母親の葬礼では、端を折り返して縫い付けている衣服 (*tang không sỏ gầu*：齋衰 [Tề thời] と呼ぶ) を着用する。

- 娘・嫁：白い衣服、頭を覆う白い頭巾。

- 婿：白い衣服、頭を縛る白い頭巾。

- 父方・母方の祖父の孫：白い衣服、男性は頭を縛る白い頭巾、女性は頭を覆う白い頭巾。

- 父方・母方の祖父の曾孫：通常、*chất* と呼ぶ。父方の *chất* は赤い喪服、赤色の帽子。母方の *chất* は黄色の喪服、黄色の帽子。

- 父方・母方の玄孫：通常、*chít* と呼ぶ。青色の喪服、青色の帽子、父方・母方の区別はしない。粗布で作られた喪服は、死者への甚だしい哀悼のために、親族は良いものを着用する気持ちもなく、慎重に衣服を気を配る余裕がないので粗末な服を着ており、悲しみの余り寝食を忘れていることを体現しており、卒倒して頭を打ったりするのに備えるために、不安定で杖をついており、藁束の帽子をかぶっているということを体現している。庭の樹木も家主の悲しみ分かち合うために葬礼用の頭巾が結ばれる。

成服の儀礼の後、家主は正式に喪を發し、それ以降、親族や知人達が初めて香典を携えて訪れる。

11. 贈弔 (*Phúng điếu*)：親戚や役人の客が訪問・参拝する儀礼。

役人の客が香典を持って訪問する儀礼が進行する中で、子孫は靈柩の両側に立っていないとせず、通例は男性が左側、女性が右側に立つ。年長者などの参拝客、あるいは社会的に地位が上の参拝客であっても靈柩の前で手を合わせて跪く。参拝客は靈柩ですみやかに喪中の家で通常2回跪き1回手を合わせて参拝するが、跪かない場合は2回手を合わせる<sup>6)</sup>。故人の子孫は、香典を持ってきて十分な回数参拝を行った参拝客に跪いて返礼（あるいは手を合わせて返礼）しなくてはならず、これは死者に代わって参拝客に謝恩するかのようである。参拝の儀礼は通常、号令者の鉦の音の合図に合わせて行われる。

褥文の朗読である。キリスト教式の祭壇は簡略であり、洗礼名の板、香炉（あまり使われない）、白百合の花瓶、十字架がある。棺の後方には教区の名を刺繍した布がある。以下、大西和彦氏によるご教示：Phan Kế Bình, *Việt Nam phong tục*, Nxb. Thành phố Hồ Chí Minh, 1992/1915, 30頁に「棺中には常に北斗七星を刻んだ板を入れる。」と記され、Toan Ánh, *Phong tục Việt Nam*, Nhà sách Khai-Trí, Sài Gòn, 1968, tr.507にも「わが国の習慣では、魔除けのため棺中には常に北斗星を刻んだ板が置かれる」とある。

5) キリスト教の各家庭では藁紐と杖は使用しない。

6) 埋葬が終わった後、人々は初めて霊前で4回跪き1回手を合わせる参拝をする。

フエにおける俗例によれば、参拝が済んだ客は通常、故人を見送るために左から右へと霊柩を一周する（霊柩の置かれた方角にもよる）。葬式の参拝の礼物については、フエでは現在、花輪・果物・帳聯（trương liễn）・線香・現金などが一般的である。

12. 朝祖（Triệu tổ）：葬送を行う準備をする1日もしくは2日前に祖先に報告する儀礼。
13. 朝奠（Triệu diên）：葬送の日の午前に行う礼拝の儀式。
14. 夕奠（Tịch diên）：葬送の日の午後に行う礼拝の儀式。
15. 告道路（Cáo đạo lộ）：葬送を行う前に夜間に道路に行く許可を請う儀式。礼拝の儀礼を葬送の方角に従って外の道路で行う。
16. 遣奠（Khiên diên）：出棺の前に行う儀式。
17. 移棺：棺を埋葬のために移動する。

移棺の時、母親の葬式であれば長男と嫡宗の孫がその家の男子と共に故人の線香の鉢・位牌・遺影を捧げ持って霊柩の前に行くが、衰微するために霊柩の方を振り返る。父親の葬式であれば長男と嫡宗の孫が男子と共に霊柩の前に行く（「父は送り、母は迎える」）。およそ24人の黄・緑・赤の衣服をまとめて霊柩を担ぐ陰功隊（Đội âm công）と赤いすげ笠の隊が、頭巾を着けアオザイを着用し、拍子を取るために拍子木を持っている該扛<sup>7)</sup>（Cai giang）によって指揮される。霊柩が丁重に担いで運ばれ、原則として棺の頭が前方で、棺の足が後方である。次に来るのが家族の女子・嫁・親族・参加客が最後に埋葬するまで死者を送るために次々と後に続く。霊柩を埋葬まで送る過程では、女性と嫁は葬儀用の頭巾を取り出し、頭をしっかりと覆い頭巾（mũ màn）を付け、埋葬が終わって初めて頭の覆うのをやめ、頭の上をしっかりと覆うために再び頭巾をしなければならない

18. 齋度中（Tế độ trung）：道路上で行う棺を埋葬場所まで送るための礼拝儀礼。
19. 下棺（Hạ khoán）<sup>8)</sup>：棺を納棺し、埋葬すること。棺の上を土で塞いだ後、該扛は、陰功隊（đội âm công）を指揮して周囲を整理し、棺を持ち上げる輿の棒をつかんで墓穴にしっかりと埋めるために地面を叩き固め、叩くが、それは該扛が故人について非常に感動する話を長々と語り始めることにより始まり、その調子に合わせて、棺が墓穴に下ろされていく。
20. 返哭（Phản khóc）：死者の霊位を祠堂に持ち帰り、葬式を完全に終える儀式。
21. 齋虞（Tế ngu；または通常、Mở cửa mã と呼ぶ）：埋葬の3日後に墓で行う礼拝儀礼。喪族は礼拝道具の支度し、墓の真上で線香や供物用の紙幣を燃やす。Mở cửa mã の儀礼の目的は故人の靈魂に冥府を越えさせ、解脱して心から満足させるためである。
22. 卒哭（Tốt khóc）：死亡してから100日後の礼拝。
23. 小祥（Tiểu tường）：死亡してから1年後の礼拝。
24. 大祥（Đại tường）：死亡してから2年後の礼拝。

以上が現在のフエにおける葬式で普及している儀式のおおよそであるが、各葬式の間で多少の相違が

7) 霊柩が安定して水平に移動するよう指揮する人。

8) 当用語は“下券”などと訳せないこともないが、“下棺（Hạ quan）”の quan が khoán に訛った可能性があるため、大西和彦氏よりご指摘頂いた。

あり、多くの相異なる要素が関連している。ここではフエの葬礼における宮廷文化・儒教・仏教の影響についてのみ検討する。

## II. フエの葬礼における宮廷文化・仏教・儒教の影響

### 1. 宮廷文化の影響

現在のベトナム人の葬礼の中では、フエの葬式は埋葬に至るまでの時間が非常に長い。例外的に、死亡してから埋葬まで3日ほどの場合もあるが（しかし非常に少ない）、最も一般的なのは5～9日、14～15日たってようやく出棺する場合もある。

棺を家の中に余りに長期間置く習慣は医学的・衛生的問題をクリアすることが非常に困難であり、科学的・文明的な生活様式には適合しないが、このような様式を多くのフエの人々は依然として今日まで維持している。この事は、かつての宮廷の葬送儀礼の影響から説明することが出来る。以前の阮朝における皇家・官吏の埋葬では、葬礼は大規模で弔問も盛大であり長期間に渡る習慣であったが、これがフエの人々の心理に深い影響を与えている。フエの葬礼は現在のベトナムにおいて最も長期間に渡る。

葬列の組織の仕方にも、宮廷の葬礼の影響が依然としてフエではかなり浸透して維持されており、特に多くの阮氏の後裔ではこの傾向が強い。例えば1980年、ドゥック・バー・トゥ・クン（バオダイ帝の母）が亡くなった時、フエが大洪水であるにも関わらず宮廷儀礼と仏教儀礼に従って葬礼が組織された。ドゥック・バー・トゥ・クンの墓も棺の外箱の中にあり、壕の中に十分な奥行きを持って設計されている<sup>9)</sup>。あるいは1987年にズイタン帝の遺骸がフエに帰ってきたとき、改葬は *bác đê vương*<sup>10)</sup> と名付けられた宮廷儀礼に従って行われ、葬列の隊形や装束は朝廷風であり、陰功隊（*đội âm công*: 棺を担ぐ人々）は威厳のある龍服を着用して、フエ市外をねり歩いた<sup>11)</sup>。

普通のフエ人にとって、葬送儀礼も非常に奇をてらったもので、宮廷様式の形式を重んじて、かつての葬列が毎回そうであったように、赤い大傘を死者の位牌に差し掛け、陰功隊は通常は昔風の装束を着て朝廷の兵士のようなすげ笠を持つ（図解の写真を参照）。

フエに普及している多くの宮廷の葬礼（しかし時代遅れの風俗と見なされ勝ちな）の影響の中の1つが、死者の墓を建設するための土地面積の広さである。普通の人でも数十㎡の土地を購入するよう努力し、財産のある人は数百㎡も購入し、600㎡にも達する墓を建設するときもある。2008年の統計によればトゥアティエン・フエ省の全面積506,527ヘクタールの内、8,209ヘクタールにも達する義荘・義地（共同墓地）があり<sup>12)</sup>、トゥアティエン・フエ省における一人当たり平均の義荘・義地の面積はベトナムで最も高い部類に属する。阮朝の陵墓の広大な空間はフエの人々の心性や、皇帝家の方式による墳墓の建設のために大きな土地を保有する習慣の形成に強く影響していることは明らかである。

9) ドゥック・バー・トゥ・クンはトゥアティエン・フエ省、フオントゥイー県、フオンチュー社のカイディン集落の近くに埋葬されている。

10) 直訳すると、帝王級、帝王クラスという意になる。

11) ズイタン帝の墓はタインタイ帝の陵墓の角にある。

12) 出典：www.tieuhocdanghai.com.

巨大な墳墓を建設するほど、死者に対して生者が義を尽くしていることを体現することになるという観念と共に、フエの多くの家庭は広々として美しい墳墓の建設を競い合うようになった。とりわけ、死者の墳墓がフエのように「lăng (陵)」と呼ばれ、「黄泉の人の町」という意味に変わってしまう例はベトナムでは他にない。昔、lăng は皇帝と諸侯の階級だけのためのものであったが、現在、xây lăng đắp mộ (陵を築き、墓を盛る) という語句はフエにおいて死者を埋葬する中で普及するようになってきている（図解の写真を参照）。

フエの人々のもう一つ埋葬において北部・北中部を大きく異なる習慣があり（元来は富裕で伝統的な地域で見られるベトナムの習慣）、それは埋葬した日から数えて3年後に墳墓を改葬する風俗が普及していないことである。

なぜフエの人々は北部の人々のように改葬する風俗を持たないのであろうか。これもフエの人々が受けた宮廷文化の強い影響がまだ残っているためである。阮朝の皇帝や諸侯はそれぞれ代々の先祖が安眠し、非常に慎重に風水的地理が考慮され、誰も騒ぐことが許されないような、自分達の陵墓の区域を持っているが、フエの人々も墓の埋葬者にとって安定したものであり、また一族の親類が安心して達成感が得られるものとするために、親族の墓がしっかりと長期間耐えるようなもので、慎重に埋葬の位置や方角が考慮されたものであることを望んだ。

このような観念は埋葬の3年後に改葬する風俗とは明らかに相容れない。また、これはフエにおける棺が通常、かなり風変わりではあるが、重厚かつ頑丈であり、また固く隙間を閉じたものであり、費用のかかるものとしている理由でもあり、粘土、灰、その他のものを詰め込むことによって寝殮 (tẩm liệm: 埋葬の準備) が慎重に行われ、遺体の隙間を埋めてしまう理由でもある。このためフエにおける棺の重量は現在のベトナムの他地域に比較して最も重くなる。

## 2. 仏教の影響

フエでは病人や病弱の人が臨終間際になるたびに、大半の家庭<sup>13)</sup>では通常寺院から僧侶（もしくは祈祷師）を家に招いて念仏を唱えてもらう。僧侶は通常、拝懺 (bái sám)<sup>14)</sup>というお経を唱え、病人が非常に衰弱して死が間近になると、「Di Đà」というお経を唱え、また念仏を上げ、臨終間際には声をそろえて「Nam mô Tiếp dẫn Đạo sư A Di Đà Phật」を臨終の時まで唱える。

治棺と入殮 (nhập liệm) の儀礼では、死者を清めて新しい服に着替えさせた後、人々は Phái quy y<sup>15)</sup>を胸の上に置き、遺体の上を mền Quang Minh (光明<sup>16)</sup>) という名の薄いかけ布団で覆い、頭に観音帽（もしあれば）をかぶせ、僧侶が正装して棺の頭側に立ち、香炉を1つ棺の中に置いてから、治棺の儀式が神呪文 (bài thần chú<sup>17)</sup>: 神呪篇) によって開始する。mền Quang Minhの上には上辺の右隅もしくは左隅に死者の名前、戒名、年齢が記されており、また死者を守るための諸仏の護符が記されている。

13) 特に仏教徒。儒教と道教の場合は祖先を礼拝する。

14) 過去の罪を洗い流すこと。

15) 仏教に帰依したことを記す承認状

16) 北部では tằm áo Hải Hội (海会衣) と呼ぶ。大西和彦氏によるご教示。

17) 経文の一種

多くの仏教徒は *mền Quang Minh* で遺体を覆うと *Chon ngôn*<sup>18)</sup> の威光と神力によって死者は極楽世界へ往生することができ、重喪（始めの葬式が終わらないうちに次の葬式を行うこと）を防ぎ、故人の家庭が安寧を享受できると観念している（図解の写真を参照）。

入殮が済んだ後、人々は前に仏を祀る机を設け、霊床を後ろに置く（仏前霊後と呼ぶ）。仏前には通常、*Phật* 阿弥陀仏もしくは観音菩薩、あるいは地蔵の仏像を置き、霊床には位牌、死者の遺影、茶碗3杯の飯、コップ3杯の飲み物、祭祀の供物を置く。設置が終わると、各僧侶は死者の霊魂を再び棺の中に入るように請霊復魂の儀式を行う。復魂の儀礼が終わると、各僧侶は仏前の前で亡霊のために読経するために開経礼を行い、さらに続けて毎日、進霊（ご飯を供える）の儀礼を行う。フエの人々は通常、長期間の葬式の日々の期間中、霊前に供えるために齋食を作る。

葬列が渡る日の前に、仏前で正装した各僧侶と喪服を着た死者の家族は渡りの大礼を実現するために霊柩の前に整列する。大礼が終わると、各僧は、先に行って道案内するための儀礼を行い、死者の子孫は互いに紐でつないで外庭から家に入ってきて霊柩の周囲を4周し、回りながら読経し、霊魂の解脱と全一家眷属が故人と別離するために祈る。葬列が渡る時、各僧侶は全ての儀礼の進行、出棺、齋度中（*Té độ trung*）、下棺（*Hạ khoán*）などを指揮者であり、陰功隊（霊柩を担いで埋葬に向かう隊）僧侶の号令に従う。*Hạ huyết* が済むと家長は霊魂に祭祀を行っている家に戻るよう請い、各僧侶によって行われる霊を安んずる儀礼のためにすぐに齋食の礼物を置くが、これを謝仏礼（*Lễ Tạ Phật*: 還経）と呼ぶ。

この他のフエの葬礼において仏教の痕跡を持つ習俗の1つとしては「七七齋旬（*Thất thất trai tuần*）」という礼拝がある。この7週の礼拝は、死んだ日から7週間連続で礼拝するもので1週間に1回、7週間で49日間である。この目的は死者の霊魂がお経を聞いて早く解脱させることである。仏教の輪廻の思想によれば、霊魂は死体から離れてから生まれ変わるまでの49日間は不安定に家の周辺をさまよっており、この期間中は礼拝を行う<sup>19)</sup>。

### 3. 儒教の影響

全般的に儒教はフエ住民の生活に深く浸透しており、フエの葬礼もその一例である。

既に言及した多くの儒教の影響を除くと、儒教の影響が最も明らかであるのは朝祖礼（*Lễ Triều tổ*: 祠堂の中で行う）である。この儀礼は安葬の日の前日に行われる。人々は遺影・位牌・香炉・燭台・その他の品物を一族の祀堂の祖先の祭壇の前に招請し、西側の小さな机の上に霊位を置き、回転して東側に向ける。この儀礼を行う時、男性は杖を下に置き、女性は葬式用の帽子を頭から外し、喪主が死者の霊魂の代理をして祖先を礼拝する。この儀礼は儒教における孝行を体現している。

フエの葬礼の習慣における儒教の根深い痕跡は居喪<sup>20)</sup>（*Cư tang*）にも見られる。死者のための喪服の着用には、5つの異なる等階がある。

18) 真経の一文

19) フエの人々も100日の礼拝、1年目の礼拝（小祥 [*Tiểu tường*] と呼ぶ）、2年目の礼拝（大祥 [*Đại tường*] と呼ぶ）を行うが、これは仏教のものではなく、民間と儒教の習俗である。

20) 喪服などに関する規定

大喪（Đại tang）：斬衰（Trảm thôi：父親の喪）、斎衰（Tề thôi：母親の喪）を含み、葬式から3年喪に服すが、現在は2年に減らすのが一般的である（男子、嫡宗の孫と妻を含む）。長男の身は2年3ヶ月喪に服す。

期年（Cơ niên）：1年間喪に服す（内孫、既婚の女子、婿、実の兄弟、夫、実の叔父・伯父、嫡宗の孫の内族の祖父母など）。

大功（Đại công）：9ヶ月喪に服す（実の叔父・伯父の子供、嫁の両親、既婚の女子。実の伯父・叔父が既婚の姪もしくは嫁の喪に服す場合。その逆も同様）。

小功（Tiểu công）：5ヶ月喪に服す（曾孫、内族の兄弟の孫、父方の伯父・叔父の息子の孫、実の兄弟の孫の嫁の叔父・伯父。嫡宗の孫の妻もしくは既婚の孫の内族の祖父母、外族の孫もしくは血縁の若者、夫と血縁のある孫嫁など）。

總麻（Tỳ ma）：3ヶ月の喪に服す（玄孫、故人の兄弟の孫、既婚の故人の姉妹の孫、父親の実の伯父・叔父の娘の孫、婿の両親、外族の祖母が孫の喪に服す場合など）。

このように昔は服喪が複雑であったが、現在フエでは服喪も次第に簡略化される傾向にある。フエにおける一族、家族は主に各代の直系により服喪が維持されているだけであり、それぞれの親族関係は異なるが、最も多いのは5ヶ月と3ヶ月の2種類の服喪しか行わないか、あるいは葬礼に参加して終わったら、服喪の人が喪服を喪主に返し、喪が明けたときに喪主自身が焼却する。

服喪期間中、喪に服す人は祝い事には参加せず、結婚式や新築祝いに参加せず、新年祝いに他人の家を訪問することはない。家の中では結婚式、誕生日会、記念などの全ての行事は喪が明けるのを待つ一時的に凍結される。これも儒教の孝行を体現している。近年、喪家ではこのような服喪儀礼は廃れてきているが、依然しっかりと根を張っている。儀式通りに埋葬した後、家庭の構成員は依然として平常通りに働いて日常生活を営んでおり、喪服は調整されて服の胸の辺りに付ける黒い小さな布きれとなっている。

### Ⅲ. 結論

葬礼は伝統とフエにおけるベトナム人の暮らしを象徴する多く文化の1つである。葬礼の形式は風変わりであり、多くの他の地方とは細かい点で一部異なっているが、同じ血が流れる多くの人々の情感や情義表明するという目的に集約され、死者が親族の心の中に永遠に生き続けることを肯定している。

フエの人々にとって死は終わりを意味するのではなく、現在の肉体が減るだけで、霊魂は消滅しないと考えている。それゆえフエの葬礼は通常、故人を嘆かせることがなく、また同時に親族や参拝客が喪主をあざ笑うことがないよう、既に学んだものであるかのようにすみやかに組織され、先祖伝来の習慣に正しくのっとなって周到に準備され、行われる。

フエの葬礼の慣習における風変わりさと荘重さは現在まで維持されており、現在の我が国の葬礼と生活のリズムにおける文明的生活様式の実現に関する多くの規制をもとにしていない。このことは個別に言えば宮廷文化、儒教、仏教、道教の多くの影響がフエにおける葬礼儀式に深く浸透しており、さらに大きく言えばフエ地方の人々の生活スタイルに深く浸透していることの反映である。

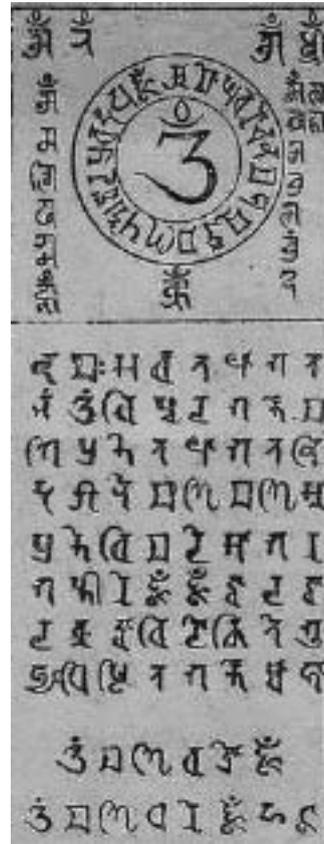
当然、これら多くの要素を時代遅れ、不衛生、非文明的とみなすことも可能であり、簡略化もしくは除去することが極めて急務であるが、人間の情感、孝道の意義、死生観に関する多くの美しい価値は、優れた人間性をもたらし、少々複雑な形式の葬礼により現世の生活から辞去する瞬間にある人間を尊重することは、現在、伝統文化の価値が埋没しつつある趨勢において、利益を出すことのない多くの事柄がまだ消滅していない事を意味する。

於フエ 2010年6月

訳者後記：翻訳や全文の粗訳を上田が行い、細かい用語や表現の修正を西村が行った。用語の一部説明や漢字化に際して、大西和彦氏のご教示をを頂いた。記して感謝する。また、難解な用語、翻訳の困難な用語は原語表記を残した。



告訃 Cáo phó (2009年)



光明布団上に書かれた梵字 (2009年)



“光明” 布団をかけられた遺骸 (2009年)



治棺礼 (1999年)



入棺礼 (1999年)



復魂と成服礼（1999年）



夕奠礼 (1999年)



遣奠礼 (1999年)



移棺礼（1999年）

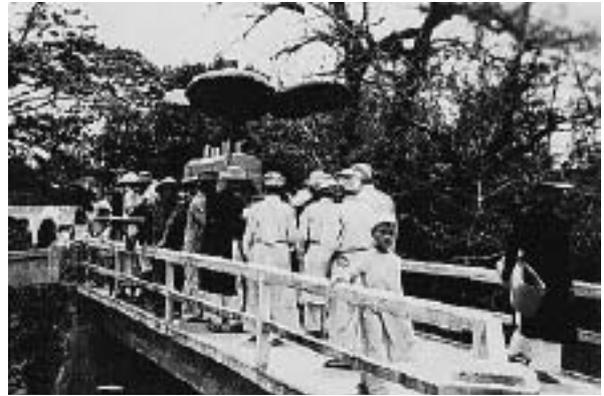


移棺礼 (1999年)



啓定帝の葬列（1925年）





葬列例（1960年）



葬列例（1971年）



葬列例（1999年）



葬列例（2008年）



葬列例（2009年）



齋度中（1999年）



齋度中（2008年）



下棺礼（1999年）



下棺礼（2008年）



下棺礼 (2009年)



齋虞礼（2009年）



Thừa Thiên Huế 省 An Bằng 村の墓（“陵”）の実例（2010年）

## 한국어 초록

### 후에 (Hue) 지역 장례에 보이는 궁정문화 · 불교 · 유교의 영향

#### 응웬 콕 쩡 티엔

베트남의 장례풍속은 18세기 『수매가례 (壽梅家禮)』가 등장한 후 서서히 통일성이 보이게 되었는데 응웬 (阮) 왕조의 수도로서 궁궐이 존재했던 후에에서는 독자적인 요소가 보이며 지금도 황족의 후예들이 장례를 궁정 (宮廷) 식으로 많이 치르고 있다. 그리고 근년에는 일반인들의 장례에서 무덤을 대규모로 만들어 이를 “陵”이라 부르는 승관도 관찰된다. 3년이 지나도 개장 (改葬) 하지 않는 풍속 또한 궁정 풍속의 영향이 아닌가 생각된다.

한편 불교적 영향으로서는 저승으로 가기 직전부터 독경을 시작하고 납관 (納棺) 시 광명 (光明) 이라고 하는 이불을 덮어주어 극락 왕생을 기원하며 납관 후 제단에서 부처와 사망자의 영혼에게 제사지내는 등의 풍속을 들 수 있다.

마지막으로 유교의 영향으로서는 사당에서 치르는 조조례 (朝祖禮), 그리고 친족의 촌수에 따른 복상 (服喪) 기간 등이 있다.